

令和6年10月24日
国立大学法人東京芸術大学
学長選考・監察会議

国立大学法人東京芸術大学長の令和5年度業績評価について

東京芸術大学学長選考・監察会議規則に基づき、令和5年度における国立大学法人東京芸術大学長の業務執行状況を確認し、評価を実施しましたので、下記のとおり公表します。

記

1. 学長氏名

日比野 克彦

2. 評価対象期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

3. 評価方法

業績評価は、(1) 就任時の所信表明に掲げる項目の進捗状況、(2) 中期目標・中期計画の進捗状況、(3) 特筆すべき事項についての進捗状況、(4) 意思決定プロセスなどの適確性、の4項目について、学長から提出のあった業務実績報告書及び学長本人へのヒアリングにより行った。また、監事、役員、部局長及びその他教職員からの意見聴取及び監事による監査結果並びに令和5年度自己点検・評価等も参考とした。

4. 評価結果

学長の業務は概ね順調に遂行されていると判断する。

(内容)

所信表明で掲げた事項や中期目標・中期計画について、継続して強いリーダーシップを発揮し、未来志向のビジョンを提示するとともに、学長自らが積極的かつ迅速に行動し取り組んだ点を高く評価する。

特に、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に新たに採択されたことにより、「芸術未来研究場」の実効性を高め、本学が第4期中期目標に掲げる「芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会課題の解決」を全学的に推進するための基盤をより一層強化した点は大いに評価できる。新たなビジョン及び取組によって得られた成果については、従来からの教育研究との整合性を担保しつつ、本学の教育研究基盤に還元・実装される

とともに、予算・人員配置の再配分を伴った一層の機能強化が実現されることを期待する。

一方で、学内での丁寧な議論、説明及び情報共有の難しさが引き続き課題として認められる。学長のビジョン実現や大学経営マネジメント等を補佐する体制づくりを進めるとともに、教職員、役員、学生等のステークホルダーと日頃から広くコミュニケーションを図り、共通のビジョンを学内で形成・強固にすることで、学長のリーダーシップと全学的な体制の下、取組が推進されることが望まれる。

以上